



希望の鐘 *The Bell of Hope*



The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町 7-16

tel : 049-226-2491 fax : 049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA, 7-16 Sugawara-cho, Kawagoe, Saitama 350-0046 Japan

川越ワイズメンズクラブ会報

N o . 25-03

9月号

発行 2022年9月12日

Chartered 1998

会 長 山本 剛史郎
副会長 松川 厚子
会 計 吉田 公代
書 記 吉野 勝三郎

クラブ会長主題 「温故知人」「明日に向かって新しい出会いを！」

国際会長 Samuel Chacko (インド)

主題 Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT

(フェロウシップとインパクトで次の100年へ)

アジア太平洋地域会長 Chen Ming Chen(台湾)

主題 “Elegantly Change with New Era”

(新しい時代とともに、エレガントに変化を)

東日本区理事 佐藤重良 (甲府 21)

主題「未来に向けて今すぐ行動しよう」

関東東部部長 工藤大丈 (ベイサイド)

主題「新規技術(テクノロジー)を縦横に 駆使し、効率を重んじる。

すべては、プレミアムな価値と体験を産むために」「成せば、成る」

“No challenge, No fruit”

8月の聖句

聖書

若者も疲れ、弱り、若い男もつまずき倒れる。
しかし、主を待ち望む者は新たな力を得
驚のように翼を広げて舞い上がる。
走っても弱ることがなく
歩いても疲れることはない。
イザヤ書 40章 30~31節

Even the youths shall faint and be weary, and the
young men shall utterly fall:
but they that wait for Jehovah shall renew their
strength;
they shall mount up with wings as eagles;
they shall run, and not be weary;
they shall walk, and not faint.
(Isaiah 40:30-31)

巻頭言

青少年の健全育成とワイズ 会長 山本剛史郎

9月4日~9日、タイのチェンマイにおいて IYC
(International Youth Convocation、インターナシ
ョナル・ユース・コンベンション) が行われました。そ
の IYC に川越クラブからも木下遥七さんを推薦し、
IYCに参加しました。川越クラブ9月の例会では、木
下さんから IYC の報告会を行ってもらう予定です。また、9月30日~10月1日には東京 YMCA 山中湖セ
ンターにおいて YVLF (Youth Volunteer Leaders
Forum、ユース・ボランティア・リーダーズ・フォー
ラム) が行われます。毎年、埼玉 YMCA から多くの
リーダーたちが参加し、いろいろと学んできていま
すし、ワイズとしてもその活動を支援しています。ワ
イズの信条にもあるように、青少年の健全育成、その
ために YMCA を支援することはワイズにとって欠か
すことのできない要だと思えます。

2022年9月 例会プログラム (予告)

日 時: 9月17日(土) 午後2:00-4:00

場 所: 埼玉YMCA 川越センター

1. IYCに参加した木下遥七さんの報告
2. 10月2日(日)開催予定の「アースデイ川越 in 昭
和の街 2022」の準備

2022年8月の統計 (8月20日)

在籍9名 出席者8名 出席率90%

3. 11月3日(祝・木)(於)所沢航空公園内にて開催予定の「第23回埼玉YMCAインターナショナル・チャリティーラン2022」
4. その他

8月例会報告

川越ワイズメンズクラブ&川越YMCA ボウリング大会

利根川太郎

2022年8月20日(土)午後3時から、「ユニクスボウル南古谷」で、川越ワイズメンズクラブのメンバーと川越YMCAの生徒の皆さん、YMCAスタッフで、ボウリング大会を開催しました。

20名の皆さんに参加していただき、盛会となりました。生徒の皆さんとは、チャリティーランで顔見知りなので、すぐに打ち解けてゲームに興ずることができました。

ワイズメンバーは、ボウリングは久しぶり?・・・30年ぶりの方も居て、生徒の皆さんから最近のボウリング事情や新機能を教えてもらいながら、楽しくボールを投げていました。

両膝の手術をした吉野さんは、懸命のリハビリの甲斐あって2ゲームボールを投げて疲れも見せず、元気な姿を披露しました。

山本会長が会長杯を用意してくれて、表彰式も盛り上がりました。第1回川越クラブ会長杯は、その山本会長の手に輝きました。昔取った杵柄という訳です。

生徒の皆さんからは、「多くの人たちと一緒にボウリングができて楽しかった。」「たくさんの人とゲームができて闘志を燃やした。」「このような機会を作ってくれてありがとう。」といった感想が寄せられました。生徒の皆さんや参加してくれた子どもたちは、吉田さんが準備してくれた「豪華な参加賞」を受け取って、さらに笑顔になって終了となりました。

コロナ禍でも、みんなで楽しむ企画をという発案で計画した今回の「ボウリング大会」でした。このような行事をまた企画して、YMCAとワイズメンの絆を強めていきたいと思えます。



会費納入のお願い

会計 吉田公代

今年度から、年会費を50,000円から40,000円に引き下げることを決議しました。まだ納入されていない方は、下記にお願いします。

郵便振込口座 ゆうちょ銀行

又は

なお、他の金融機関にも口座がありますので、詳細は、会計担当 吉田公代ワイズまで連絡下さい。

甲府やまなみワイズメンズクラブ設立式報告

吉野勝三郎

9月3日(土)甲府市で開催された甲府やまなみクラブの国際協会加盟認証状伝達式に川越クラブの代表として出席しましたので、その概要をお知らせします。



すこ

この写真は、一連の儀式が終わった後、藤原一正会長と、東日本区の国際・交流事業主任として出席された利根川太郎ワイズと一緒に新しいバナーを横に撮影しました。

この新しいクラブの設立に当たっては、仙洞田さんの尽力が非常に大きかったことを知りました。これで

甲府地区に4クラブ、メンバー総数は100名になります。山梨県全体でも860,000人、甲府市は186,000人と言う人口です。

見応えのあるフラメンコを楽しみながら、改めてEMCに想いを馳せました。



国際の舞台から

“Keiko’s Monthly Briefing of YMI/ASP”

第18回国際ユースコンボケーション2022 (IYC2022)

次期アジア太平洋地域会長／国際議員 利根川恵子

9月4日(日)から8日(金)まで、タイのチェンマイで開催された第18回国際ユースコンボケーション2022 (IYC2022)に、アジア太平洋地域会長の代理として参加しました。

このIYCは、ワイズメンズクラブ国際協会設立100周年の記念の年に開催されたこと、ワイズメンズクラブの国際大会あるいは地域大会とは別に単独で開催されたこと、新型コロナウイルス感染拡大のため、3年間の中断の後、初めての開催であること、と特別に意味のあるコンボケーションとなりました。

参加者は、15カ国から74名、うち24名がアジア太平洋地域からで、日本から6名(東日本区5名、西日本区1名)、ネパール4名、フィリピン8名、タイ6名の参加でした。全体ではインドが26名で、突出したエネルギーを発していました。



(開会初日の集合写真)

内容は、環境や若者の置かれている立場などについてのディスカッション、お互いの文化を紹介する異文化理解、チェンマイYMCAが行っているコミュニティ・サービスの一環をみる学校や施設の訪問、チェンマイ市内見学などでした。

時間が限られているため、ディスカッションは十分に議論が深まらないもどかしさがありましたが、5泊6日を共に過ごすうちに、参加者はことばや習慣を超えて理解しあい、親しくなっていき、今後も長く続く友情が育まれたと確信しています。また、カルチャー・ナイトで各国の歌や踊りが披露されましたが、ダンスのステップひとつ取っても、まねのできない、生まれながらに体得している何かがあり、どんなに技術が発達しても、やはり本物には叶わないことを実感しました。

さて、日本の参加者6名も大活躍で、カルチャー・ナイトで披露した「よさこいソーラン」がベスト・パフォーマンス賞を取りました。参加者としての詳しい報告は、川越クラブの9月例会で木下さんからお話がありますので、そちらに譲りたいと思います。



(よさこいソーランを踊り終え、ポーズを決めた日本ちーむ)

私は、次期アジア太平洋地域会長として、来年香港で開催予定のAYC(エリア・ユース・コンボケーション)のことを考えながら、運営やプログラムの内容を見ていました。幸いユース国際事業主任(ASD-YIR)がフィリピンのディノ・バディリャさんで、今回のIYC実行委員会にも参画しており、運営にも深く関わっていましたし、国際ユースアシスタントのトングさんもチェンマイの方なので、彼女の経験も生かして協力していただけることと思います。アジア太平洋地域の実情に沿って、よりよいプログラムとするために、今から準備をしていきたいと考えております。木下さんには、ぜひAYC2023にも積極的にかかわっていただくことを期待いたします。

さらに個人的なことですが、2011年にBF代表としてインドに派遣していただいた時のホストファミリーのお子さんが2人(兄妹)参加していて、11年ぶりの再開を果たしました。大学生と社会人となっていて、見事な成長ぶりに感動いたしました。これもワイズ運動の賜物の一つです。



(サラ (左) とアシュイン (右) とともに)

YMCA報告

3年ぶりに東京YMCA山中湖センターにて1泊2日のビックスマイルサマーキャンプを行いました。

コロナ禍の前までは、ビックスマイルサマーキャンプは2泊3日だったので「もう1泊したい。」「次は2泊3日で」と言うメンバーもいました。

キャンプで楽しかったことベスト3を聞くと、ビックスマイル、タレントショー、ご飯などのプログラムだけではなく、寝る前のお部屋でみんなと過ごす時間もありました。



ビックスマイルキャンプは、24時間ボランティア

リーダーがグループのメンバーと共に過ごします。先生でも指導者でもない年上のお兄さんお姉さんと同じ目線で楽しむ子どもたちが普段のクラスでは見せない表情を浮かべていました。

プログラムのビックスマイルは特に自然を満喫できる場面となりました。



また、ビックスマイルキャンプ恒例のタレントショーは、普段前に中々立てない子どもたちが前で認められる場面でもあります。

さまざまな経験が、自信へと繋がり日常でも活かされたいなと考えています。

キャンプで過ごして良かったこと悪かったこと、どの時間も子どもたちの成長に繋がると考えています。

キャンプで過ごした経験が、種となり芽となることを願っています。

最後に、YMCAの働きに深いご理解ご支援をくださる関係者の皆さま、また共にプログラムを実施してくれたボランティアリーダーに感謝を申し上げます。

(文責 木下)

編集後記

やっと猛暑が去り、少しずつ秋が忍び寄ってきているように感じます。今月も多くの報告を掲載することができて幸いです。次号では、10月2日(日)が天候に恵まれて、“アースデイ川越 in 昭和の街 2022”、“紅あか”ファンド他のことを報告できることを期待します。

(KY)